

第8分科会「里山と竹林」

報告会・シンポジウム「竹林を枯らす実験」

日 時：2006年4月30日（日）10:00～12:30

場 所：千葉県立中央博物館研修室

参加者：27名



趣 旨

里山の美しい景観が、今、大きく変わってきています。その原因の一つが竹の異常繁殖です。畑も森林も竹や笹で覆われてしまったところも多く見かけるようになりましたし、放竹林がゴミの温床にもなっています。このように竹の害が顕著であるのかかわらず、竹の有用面だけが強調され竹の害はなかなか声になりません。また、猛烈な竹の繁殖力に対し有効な対策が取られていないのが現状です。竹研究会は、時代を見据えた新しい問題にこれからも取り組んでいます。

まず、必要なのが竹についての基礎的な知識の普及と竹害に対する認識の啓蒙です。ご存知の通り、最近では里山において竹が異常繁殖しておりまして、放竹林がゴミの温床になっています。このように竹害が顕著であるにもかかわらず、竹の有用な面ばかりが強調され竹の害はなかなか声になりません。また、竹の猛烈な繁殖力に対し有効な対策が取れていないのが現状であります。

内 容

竹分科会は4月30日に千葉県中央博物館の研修室にて行いました。テーマは、竹の特性と竹害対策ということで、竹の特性について説明し、竹の枯殺について具体的な実験状況等をスライドを使って紹介しました。例えば、ラウンドアップハイロードという農薬を竹幹に注入して枯らせたりしています。

農薬を使うという点については、非常に抵抗がある方もおられると思いますので、農薬を使わない方法も紹介しました。これは昔から行われてきた方法ですが、孟宗竹・真竹の特性として、7月下旬になると竹の子が出なくなり、8月上旬から9月いっぱいにかけて地下茎に栄養を蓄えるというのがあります。この特性を生かして、7月の下旬から8月上旬に竹を切ってしまうと、かなり枯殺することができます。お困りの方はぜひお試しください。

竹研究会では、時代に沿った新しい課題について積極的に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いたします。





「竹の枯殺についての実験結果から」
竹を全伐して竹林を枯殺する方法があります。
この場合、竹を切る時期が最も大切ですが、7月下旬から8月上旬に切るのが、最も効果的です。
7月下旬には筍は全て出終わっています。また、地下茎に栄養が蓄え始まるのが8月上旬から9月にかけてですので、地下茎に栄養が蓄えられる前に切ってしまうのです。

結 論

放竹林はゴミの温床になっている。これは、竹林の管理が実施されないためであるが、竹林拡大の歯止めには7月下旬～8月上旬の伐採が最も効果的である。なお、笹については、刈り取りではなかなか衰退しないので、安全な薬品の使用も必要になる。いずれにしろ、竹・笹についての基礎的な研究および知識の普及の重要性が指摘された。

竹研究会は、時代を見据え、新しい問題にこれからも取り組んでいかなければならない。



まとめ

早急な放竹林対策が必要。その為には竹をもっと知ろう！